

続、干潟のカニの分布

■カニの分布

先月に引き続き、蒲生干潟全体のカニの分布調査を行った (Fig.1)。先月できなかった干潟東側の調査となった(干潟西側についてはレポート62号参照)。干潟東側は石や泥といった底質の変化に乏しい。七北田川に近い南側の底質は砂で、干潟の奥は泥となっている。ただし、泥は固く締まっておりチゴガニやヤマトオサガニは見られなかった。砂質の部分にはコメツキガニが広く分布している。干潟の奥にはヨシが再生してきており (Fig.2,3)、アシハラガニを確認することができた。巣穴は小さなものが多く (Fig.4)、確認したアシハラガニも小型のものが多かった (Fig.5)。これらは、新たに分布を広げてきた個体ではないかと思われる。震災後新たなアシハラガニの生息環境として注目していきたい。



Fig.1 蒲生干潟東側のカニの分布

 コメツキガニ

 ケフサイソガニ

 アシハラガニ



Fig.2 干潟奥のヨシ

 (Fig.1A地点を東側から撮影)



Fig.3 干潟最奥のヨシ



Fig.4 アシハラガニの巣穴



Fig.5 アシハラガニ

(佐藤 賢治)